

松島町教育委員議事録（令和4年4月定例会）

- 1 招 集 月 日 令和4年4月28日（木曜日）
- 2 招 集 場 所 松島町役場庁舎 301会議室
- 3 出 席 者 内海俊行教育長、鈴木康夫委員、安倍七恵委員、佐藤晴子委員、小澤晴司委員
- 4 説明のため出席した者
千葉忠弘教育次長兼課長、岸淳一学校教育班長、土井弘通生涯学習班長、
赤間香澄中央公民館長、熊谷賢学校給食センター長、三品隆教育指導専門員、金津晶子学校教育班主査
- 5 議 事 日 程
 1. 開会 令和4年4月28日（木曜日）午前9時30分 開会（録音開始）
 2. 前回委員会の議事録の承認
 3. 議事録の署名委員の指名 鈴木委員・安倍委員
 4. 報告事項
 - (1) 一般事務報告
 - (2) 教育長報告
 5. 協議事項
 - (1) 令和4年5月定例会について
日程案：令和4年5月27日（金）午前9時00分 松島町役場3階 301会議室
 6. その他
 - (1) 学校経営方針に関する意見交換会について
日程：令和4年5月27日（金）午前10時30分 松島町役場3階 大会議室
 7. 閉会

6 議 事 録

1. 開会 午前9時30分

〔金津主査〕 皆さん、おはようございます。（「おはようございます」の声あり）

これから松島町教育委員会令和4年4月定例会を開会いたします。

開会の挨拶を内海教育長、お願いいたします。

〔内海教育長〕 皆さん、おはようございます。（「おはようございます」の声あり）

座ってお話しさせていただきます。

年度が変わってからの第1回目の教育委員会の定例会ということで、どうぞよろしく申し上げます。

子どもたちは4月に入学式を終えてから、順調にいつもどおり連休まで行事をこなしてきました。連休を経てから、今度は運動会等の練習などに入って、さらにクラスとして強固になり、学校としてより前向きな形で1学期を充実させていく流れに入ってきております。

大型連休は、4月まで一生懸命頑張った子どもたちがリフレッシュできたらと思いますが、先日の栗原のようにため池とかで亡くなっていることも多いので、この前校長会をしたときには十分に保護者に注意喚起を促すようにしました。交通事故もそうだし、沼だけではなくて川での釣りとかも危険なので、連休後には全員揃って運動会の練習ができるようにというようなことをお話しさせていただきました。

あと、教育委員会としては大きなことが何点かありますので、それは教育長報告の中でうれしいお話を私のほうから、あるいは次長のほうからさせたいと思いますので、よろしく申し上げます。

私のほうからは以上です。

〔金津主査〕 ありがとうございました。

では、今年度1回目ですので、職員の紹介を教育課長より申し上げます。

〔千葉教育次長兼課長兼課長〕 改めましておはようございます。今年度もよろしくお願いいたします。

4月1日の異動で管理職が代わっておりますので、紹介させていただきたいと思います。

まず、初めに岸学校教育班長でございます。

〔岸班長〕 よろしく申し上げます。（「よろしく申し上げます」の声あり）

〔千葉教育次長兼課長〕 改めまして、土井生涯学習班長でございます。

〔土井班長〕 引き続きよろしくお願いたします。（「よろしく申し上げます」の声あり）

〔千葉教育次長兼課長〕 赤間香澄中央公民館館長でございます。

〔赤間館長〕 赤間でございます。よろしく申し上げます。（「よろしく申し上げます」の声あり）

〔千葉教育次長兼課長〕 熊谷賢給食センター所長でございます。

〔熊谷館長〕 熊谷です。よろしくお願いたします。（「よろしく申し上げます」の声あり）

〔千葉教育次長兼課長〕 三品隆教育指導専門員でございます。

〔三品教育指導専門員〕 よろしくお願いたします。（「よろしく申し上げます」の声あり）

〔千葉教育次長兼課長〕 教育委員会のほうを担当します金津でございます。

〔金津主査〕 金津と申します。よろしくお願いたします。（「よろしく申し上げます」の声あり）

〔千葉教育次長兼課長兼課長〕 最後に、教育次長兼課長となりました千葉です。本年度もよろしくお願いたします。（「よろしく申し上げます」の声あり）

以上でございます。

2. 前回委員会の議事録の承認

〔金津主査〕 続きまして、2番、前回委員会の議事録の承認について、3月定例会の議事録について、配付しておりました資料をもとに、承認ということでよろしいでしょうか。（「はい」の声あり）

ありがとうございます。

定例会終了後に署名をお願いいたします。

3. 議事録の署名委員の指名

〔金津主査〕 続きまして、3番、議事録署名委員の指名となります。

今回、鈴木委員と安倍委員をお願いいたします。よろしくお願いたします。

4. 報告事項

(1) 一般事務報告について

〔金津主査〕続きまして、4番、報告事項に移ります。

(1) 一般事務報告に移ります。

初めに学校教育班、お願いいたします。

〔岸班長〕それでは、学校教育班の行事報告からご説明いたします。

資料の1ページをご覧ください。

主な行事について説明いたします。

3月31日、教職員離任式、4月4日、教職員宣誓式につきましては、教育委員の皆様にもご参加いただき、実施いたしました。

8日金曜日、町内の各幼稚園、各小中学校で始業式が無事執り行われました。

9日土曜日には中学校、11日月曜日には各幼稚園、各小学校で令和4年度の入学式が行われました。

入学者数ですが、中学校は86名、小学校は3校合わせて79名、幼稚園は3園合わせて23名の入学者数となっております。

全校の児童生徒数についてですが、中学校が3学年合計で265名、昨年度の5月1日時点より11名の減少となっております。小学校につきましては、3校で502名、昨年5月1日時点より12名の減少となっております。幼稚園につきましては、3園合計で80名となっております、昨年5月1日より4名の減少となっております。

少し飛びまして、27日、昨日ですけれども、第五小学校で台湾の双冬小学校とオンラインでの交流が行われました。お互いの学校や気候について質問をし合ったり、歌を歌ったり、英語や中国語を交えて交流を行いました。子どもたちは、「緊張した」とか「楽しかった」などの感想がありまして、少しでも海外や外に目を向けるきっかけになればと思っております。

行事報告については以上となります。

続いて、行事予定についてです。

資料の2ページをご覧ください。

主なものについて説明いたします。

21日土曜日、各小学校で運動会が実施される予定になっております。今年度も全小学校で同じ日の実施になります。

続いて27日金曜日、教育委員会定例会に合わせまして、各校の校長先生にお集まりいただきまして、学校経営方針に関する意見交換会を実施する予定となっておりますので、よろしくご説明いたします。

学校教育班からは以上になります。

〔金津主査〕続きまして、学校給食センター、お願いいたします。

〔熊谷所長〕それでは、3ページ目をご覧ください。

学校給食センターの行事報告をさせていただきます。

令和4年3月25日から4月28日までの期間の行事につきましては、4月12日火曜日から令和4年度の学校給食が各小学校・中学校で開始となりました。15日金曜日から各幼稚園でも給食が開始になりました。開始から約3週間経過しましたが、順調に給食を提供できております。

続きまして、4月29日から5月27日までの行事予定につきまして説明いたします。

5月の中旬に学校給食の担当者会議を予定しており、現在日程の調整を行っている状況であります。

以上となります。

〔金津主査〕それでは、学校教育班及び学校給食センターの報告について、ご質問等ございますか。

(質疑)

佐藤委員

今年度も予定どおりつつがなくスタートしたこと、本当によかったなというふうに思います。

1点目としては、行事が予定どおり実施できてきたということで、ホームページを拝見いたしましても、子どもたちの笑顔がそここであふれておりますし、こういった笑顔をやっぱり学校の先生方、そして教育長先生はじめ教育委員会の皆様にもきちんと支えていただいているということをお大変感謝しているところです。

2点目が、4月19日に全国学力・学習状況調査が小中学校で実施されまして、今年度は理科が追加された形といたしますか、昨年度までとの違いということであるかと思っております。それで、昨年はとても素晴らしい成績でしたので、今年度もまたちょっと期待をしているところではございますけれども、ただ、その結果のよしあしということに関しましても、やはりPDCAサイクルで、何が効果的であったのか、そして何に課題があったのか、それをまた継続して次年度につなげていくということが必要かと思っておりますので、その点をお願いしたいと思います。

最後、3点目でございますけれども、点検ということに関してでございます。先ほど教育長先生からもお話を頂戴いたしました。白石一小の件とか、それから北海道の遊覧船の件につきまして、やはり人ごととせずには我が事として捉える必要があるかなと思っております、そこで私の中ではぜひ2つのことを改めて確認させていただきたいと思うのですが、1点目はそういった点検についての規定がきちんと整っているのかということです。

それから2点目は、そういった点検というのはどうしても形骸化しがちですので、1人では行わずに複数で行うということで、より確かな点検になっていくと感じているところでございます。どうぞよろしく願いいたします。以上でございます。

岸班長

点検についてですが、規定はありまして、毎月学校職員のほうから点検結果が上がってくるような形になっております。今年度、事故を受けて県から点検の仕方について文書で来ていまして、今までより具体的に複数の目で、と示されていますので、そちらのほうを守りながら、各学校の先生に見ていただいて、不具合があれば教育委員会に報告し、直していくというような形を取りますので、これからも気をつけて行っていきたいと思います。

佐藤委員

どうぞよろしく願いいたします。

内海教育長

あともう一つ、私のほうから、防災マニュアルについても県のほうから重点的に各教育委員会に指示が出たところです。それで、三品先生を中心に各小中学校、そして幼稚園等を含めて、防災マニュアルをもう一回チェックをする予定です。三品先生が外からチェックし、中から校長がチェックする形です。三品先生からOKが出るまで実施したいと思います。学校内で形骸化しないように、学校ではOKでも、三品先生に見てもらい、違となれば検討して直していく必要があると思っております。大川小学校の判決では、ハザードマップを超えたところに学校の子どもの命を守る使命があるというような判決が出たところだと思いますので、そこまで深く調査しながら、注視しながら調べていきたいと思っております。ちょっと時間はかかりますけれども、急いで対応していきたいと思っておりますので、どうぞよろしく願います。

あと、沼の看板とか。

千葉教育次長
兼課長

私のほうから、ため池の事故を受けまして、町全体で建設課、産業観光課、教育委員会で町の危険なため池を今週初めまでに調査しまして、危険な箇所については看板の設置により対応しておりますので、ご報告させていただきます。以上です。

佐藤委員

やっぱりいろいろな部署が連携を図ってということが非常に重要だと思っておりますので、いろいろご尽力いただいていることに感謝します。ありがとうございます。どうぞよろしく願いいたします。

安倍委員

今年度も子どもたちのことをよろしく願いしたいと思います。

ホームページをいろいろ見ていまして、やはり4月ということで、いろんな桜の景色だったり、お花だったり、松島のいい景色だったり載っていて、見るだけで楽しいなと思って拝見していたのですが、その中でそれぞれの学校の特色が出ているなと思っていました。

一小さんでは、アレルギー研修会ということで、子どもたちが帰った後にこういうふうにするんですよと、足にお薬を刺しているような写真がありました。急に何かが起こるとやっぱり慌ててしまって、遅れてしまうということもあるでしょうから、こういうことがされているというのを保護者が知るといことは、アレルギーを持っているお子さんだけではなく皆が安心できる一面だったのかなと思って見ていました。

二小さんでは、子どもたちを迎える裏の場面、先生たちがこういう仕事をして子どもたちを待っていますというところの発信で、子どもたちの入学式といった行事もありがたい発信ですけれども、先生方の迎え入れてくれる側の発信というのなかなかないので、二小さんはそういうところが多く、今年度もいい傾向が続いているなとありがたく見ていました。先生の入学式の発表がペラペラ方式だというのが、あれはちょっと新しく、面白いなと思って拝見していました。

五小さんに関して、台湾との交流が大成功で、テレビで報道がされたということで、「はい、昨日」の声あり)です。それで、松島のいい面が発信されていくことで、皆さんに興味を持ってもらったり、自分たちの町に自分たち自身が興味を持つ新たなきっかけになったのかなと思うのと、チーム五小ということで、新しくホームページにすぐわかりやすく掲載されていたのですね。プリントで手元に来ることはあっても、あのように見える化というのはなかなかないで

すし、これも新しい試みなんだなと思って、すごく感心して見させていただきました。

中学校では、意見だったり、役員会のほうで聞けたうれしい声もあったので、少しお知らせたいと思います。

職員の方より、1年生の話を聞く態度がすごくすばらしいということを知りました。これも小学校からの積み上げなのかなと思います。よく行事で「来賓の方、こちらへ」と言うとおへそをばっとそちらへ向けるというのがあると思うのですが、ある職員の方が、立ち上がった、移動した際に何も言わずにおへそが自分のほうに向いて、みんなと目が合うということで、新しく来られた先生でしたが、特にそのことにびっくりしておられて、松島の積み上げてきたものって大きいんだなということを感じておられたようです。

その他、3年生が新しく入部する子たちを体験という形で、とても優しく親切にしてくれていたということで、その職員の方によると、もしこれがお店屋さんだったら私は間違いなくここで買いたいと思うくらい素晴らしい対応だったという、うれしいお話を聞きました。良いスタートを切れたのかなと思い、ほっとしていたことを少し報告させていただきました。

以上です。

内海教育長 ありがとうございます。各学校の校長先生に今のお話をしたら、狂喜乱舞するのではないかと。ありがとうございます。

〔金津主査〕 それでは、続けさせていただきます。生涯学習班、よろしく願いいたします。

〔土井班長〕 それでは、生涯学習班の行事報告並びに行事予定のほうを説明させていただきます。

資料の4ページのほうをご覧くださいと思います。

まず、初めに行事報告のほうからさせていただきます。

3月26日に日本遺産「政宗が育んだ“伊達”な文化」というところでの「セタシマクエスト」ということで、仙台、多賀城、塩竈、松島の合同の事業について、松島担当分をやらせていただきました。こちらのほうは4組、4名の子どもなのですが、実際にはご家族でいらしていただいて、お子さんのほかにもお父さん、お母さんが大変に興味を持って、松島の文化について勉強していただいたところでございます。見た場所につきましては、雄島、あと五大堂、瑞巖寺というところで、要所を回ったところでございます。

続いて、4月8日になります。第1回目の松島まるごと学推進委員会ということで、社会教育事業として取り組んでいます松島まるごと学の推進会議を、学校の先生たちに参集いただきまして、実施しているところです。内容としましては、令和4年度の大まかな流れの部分の確認と、あと特に1学期にする部分の確認のほうを重点的にさせていただいたところでございます。

あとは、4月21日に生涯学習・社会教育主管課長等会議が県庁で実施されておりまして、千葉次長が出席しているところでございます。

続いて、行事予定のほうについて主なものをご説明させていただきたいと思います。

まず5月12日、こちらは松島まるごと学の事業の取り組みの中で、中学生を対象とした事業となります。「職業人の話を聞く会」ということで、中学2年生が対象となっております。今年度の講師につきましては、分野を全部で5つ予定しております。漁業、サービス業、公共、小売業、医療ということで、漁業については漁業組合に協力をいただいて、漁業を実際にやられている町内の漁業者の方、サービス業につきましては、ホテルの小松館の若手でフロント業務をやっている3年目の方にやっていただく予定としております。

公共のほうにつきましては、塩釜地区消防事務組合をお願いして、いわゆるオレンジといわれる救助隊の方をお願いするところでございます。

小売業につきましては、海岸にむとう屋さんというお酒屋さんがあるのですが、そちらの専務の女性の方をお願いしているところです。

あと、最後に医療につきましては、高城で接骨院をやられているようこ接骨院の院長さんということで、今回は若手の方をお願いするような形で実施を予定しているところでございます。

続きまして、5月14日・15日、ジュニア・リーダー初級研修会ということで、今回ジュニアリーダーに加入の予定が5名となっております。実際どういった体験かということも必要だったので、実はもう4月17日に体験会ということで募集をしております、そのときに5名参加していただきました。そのうちの4名が今回加入に至りました。1名は、部活のほうの関係でどうしてもやれないということで、残念ながら入らなかったのですが、体験会に参加していなかった子が1人参加したいということだったので、最終的に5名になりました。

あとは、5月24日については松島町スポーツ推進委員会議を予定しておりまして、最後に5月下旬となっております。

ますが、日程は細部を調整しておりますけれども社会教育委員会議を予定しているところでございます。

以上でございます。

〔金津主査〕続きまして、中央公民館からお願いいたします。

〔赤間館長〕中央公民館等の主な行事報告、予定についてご説明いたします。

5ページになります。行事報告の欄をご覧ください。

4月7日木曜日、令和4年度第1回分館長会議を開催いたしました。大きな議題としましては、本年度の分館ふれあいスポーツ大会の開催についてでございます。コロナウイルス感染症の観点から、2年間休止となっております。分館長会議の総意としましては、コンパクトな形でもぜひということで、開催を切に望んでいるような状況になっておりまして、競技の工夫や参加される方の感染対策を講じながら、準備を進めることが決定いたしました。今後は、分館長会議などで県内の罹患状況なども踏まえまして決定していくこととなっております。

次に、行事予定の欄をご覧ください。

5月19日、今年度2回目の分館長会議の開催予定となっております。この会議で最終的に6月5日曜日の分館ふれあいスポーツ大会の開催をするか、協議させていただきます。

巡回図書につきましては、今年度は毎月実施することとしております。

以上でございます。

〔金津主査〕それでは、生涯学習班及び中央公民館等の報告について、ご質問等ございますか。

(質疑)

佐藤委員

生涯学習の関係で土井班長にお伺いしたいです。

まず1点目は感想からですが、松島まるごと学に関しては、いろいろな人材を活用されて、そして子どもたちにとってはやっぱり松島を愛することになりますし、将来に向けての志教育というものでも、いろいろな子どもたち自身の高まりがあるかなと、非常に素晴らしい事業であると私自身考えているところです。ぜひ継続していただきたいということと、1つお伺いしたいことは、例えば小松館、ホテルのフロントの方であったり、それから消防の方であったり、いろんな方を活用されているんですけども、こちらについてはマンパワーとして何かしら登録といいですか、一覧になっているようなシステムがおありなのか。そして、やっぱり私も学校現場にありましたときには、どういった方にお願いしようかなというのを非常に迷いながらやっていたものですから、もしそういう登録されているものがあれば、学校のほうでも何かしら活用できるようなシステムになっているのか、そこのお伺いしたいです。よろしくお伺いいたします。

土井班長

そちらのほうについてお答えさせていただきますけれども、今回の講師選定に当たっては、本来であれば学校のニーズに合わせて地域コーディネーターさんと相談しながら選定していくわけですが、今新たなコーディネーターさんを委嘱する前の時点でしたので、このたびの選定に当たりましては、学校さんからこういった分野で講師をお願いしたいということで、教育委員会のほうで相談を受けまして、その辺で学校さんと相談しながら、私なりに持っているネットワークのほうも使わせていただいて、今回講師の選定を調整させていただいたところでございます。せっかくなので、ふだんなかなか聞けない話もしてほしいなというところの思いもありまして、いろいろな分野の方にお伺いしたところです。

なお、逆に講師を引き受けた方からのお話だったんですけども、そういう機会もなかったので、自分の経験にとっても大変ありがたいですという話を頂戴しているところでございます。

登録システムとかは、いろんな人材をリスト化しているものもあるのですが、まだ学校さんに提供できるような整理がついていないところはありまして、例えばホテルのフロントの方とかは入っていないのですが、個別に専務の方に、前の大宮司班長は観光に強かったので、紹介していただいて、こちらの実情をお願いしたところで選定をしていただいたというような形でした。

佐藤委員

できましたら、やっぱりこの件に関してはこういう素晴らしい方がいるということとかを名簿というカリスト化しておきますと、そこから更新にはなるかとは思いますが、こういうことをお願いしたいとき、この方がいいですよみたいな、そういうところが見える化し、活用できるといいのかなと思いますので、そのシステム等も含めてご検討いただければと思います。

土井班長

今後それを蓄積していくように、頑張りたいと思います。

佐藤委員

お願いいたします。

小澤委員

今の佐藤委員のお話で少し思い出したのですが、松島の子どもたちが地域を学ぶということで、前に気仙沼大島というところの小田の浜と田中浜という「おかえりモネ」の舞台になったところ、あの浜辺を、地元の方々が結局防波堤を内陸にして、浜辺のほうを大事にしたといいます。最初、宮城県庁の計画はその浜辺に大きな護岸を造る予定だったのですが、しかも随分多くの家も流された地区なのですが、結局その浜辺を大事にしようという動きは、気仙沼大島の人たちが小さいときにそこで地引網をやったり、浜辺は本当に楽しいんだという、それが自分たちの子ども心の思い出になっていて、それを守りたいということで、そういう動きにつながったという話を聞いて、この松島で座学としてのいろいろな取り組みが今のお話だったと思うのですが、もしかしら学習という中ではないかもしれませんが、松島の子どもたちにとって印象的な年中行事とか、あるいは学校行事の中で、これは本当に松島をよく理解して、将来も大事にしたいという、何かそういうものというものはあるのかどうか。まだ松島に住んで間もないので、そういうのを知らないものですから、もしこんなものがありますというのがあれば教えていただければ。

土井班長

まず、松島まるごと学のほうですが、座学だけじゃなくて、実際活動とか見学とかもやっております。4年生が品井沼、すみません、順番が前後するかもしれませんが、まず5年生を対象として森林学習ということで、実際に森林組合さんのご協力を得ながら、実際森林に行き、森林の役割だったり、実際昔はこんな感じだったんだよということも、山歩きをしながら学ぶ学習をやったり。さらには縄文時代に関して西の浜貝塚もあります。これは座学になりますけれども、そこから発掘された土器を学校のほうに持ち込みまして、実際に見て、触れてもらって、学んでいただくということをやっております。

さらには、松島にとって重要な歴史的な建物であります瑞巖寺もありますので、瑞巖寺さんの協力を得て、これは小学6年生を対象としてやっておりますけれども、実際瑞巖寺の見学、ただ瑞巖寺に行き見て見るだけだとやっぱりなかなか入ってこないで、1週間ぐらい前に事前学習という形で、座学で1回学んでから瑞巖寺の見学をするというような授業をやっております。

あと、先ほど一番最初に少し申し上げていました4年生は品井沼干拓学習ということで、品井沼干拓で元禄潜穴、さらには明治潜穴という、そういった部分の歴史的なものがございますので、そういったものを見学するような機会、各学年で学校は違えど共通カリキュラムでそういったものを学ぶ機会を設けているところでございます。

さらには、学校ごとに特色を持って、四大観巡りをさらに加えたり、森林学習の中で工作をしたりというような形で、様々なことをやっております。

あと、ここ最近では教育長先生がいろいろとバックアップしていただいて、大漁唄い込みも各学校のほうで伝統行事としてやってみてはどうかということで、いろいろ実施しているところでございます。

以上でございます。

小澤委員

ありがとうございます。

内海教育長

ありがとうございます、班長。私のほうにも振っていただいて。大漁唄い込みは、夏の海の盆とかに輪になって皆さんで踊りますが、大上段に構えて地域性がどうのこうのと言うつもりはなく、楽しいイベントの一つとして、「いやあ、踊れないから」ではなくて、気軽に子どもたちからやればいいのかと思ってやっております。

あと、まるごと学はうちの骨格になっておりますので、それをもとに子どもたち、松島に育て、ひとくさり語れるというようなことができるようになればいいなと思います。松島イコール海みたいな感覚で取られるんですけども、森林学習、班長が言っているように、県木といって杉の標本木があるのだそうです。それが松島なのだそうです。そこから種を取って、宮城県の杉としているみたいです。話を聞くとですね。それが何と松島にあるということを教えられて、だから海のことだけ求めていくのではなくて、森林も十分に松島にとってはおいしい牡蠣とか、そういうものにも影響を及ぼすということで、子どもたちがさらに深掘りできるきっかけを、土井班長さんを中心にして行ってもらっているところです。

以上です。

安倍委員

私も同じく「職業人の話を聞く会」なのですが、本来1年生が座学で2年生が体験という形が今までベースの形だったのですが、コロナでここ2年、体験がストップになってしまっているのは事実です。2年生の体験ができないとなったときに、それをどういう形で本来できるものとタイ

アップさせて、何を学んでいくのかというところが、実は去年学校のほうで報告をもらって、少し私の中ではクエスチョンな部分があるのはあって、それは学校のほうには伝えてあるのですが、今回こうやって5部門の方に協力をいただいて、また若手の方ということで、ちょっと新しい話が聞けるのかなというところに期待があります。今後またコロナによっては体験というものが復活されていく時期が出てくるのかなと思うのですが、こうやって協力していただいた方に感謝しつつも、やっぱりコロナでの打撃で商売や仕事のほうでもご苦労されたり、新しいことを、コロナだからこうしたというものを考えたりされたことを、今まではこういう仕事だよというお話以外に話されると子どもたちに伝わるのではないかなと感じています。そういった話が、仕事とかに興味を持つ、地域に興味を持つだけでなく、何かにぶつかったときに「ああ、無理だわ」となるのではなくて、学校でこういう行事をしてくれたな、こうだったなという体験と、話をされた方はこうやって乗り越えたんだなというのが、そのときにはスルーされていても、自分がぶつかったときとかに何かしらのヒントにつながっていく機会になってくれればなと願っていますので、この協力していただいた方々には本当に感謝申し上げますので、よろしくお祈りします。

(2) 教育長報告

〔金津主査〕 それでは、続けさせていただきます。

(2) 教育長報告につきまして、内海教育長、お願いいたします。

〔内海教育長〕 それでは、何点かお話しさせていただきます。

少し色が黒くなったので、「子ども国際観光科」のパンフレットを差し上げました。

まず1つ目は、この「子ども国際観光科」というのは、新しく生み出したものではなくて、土井班長のほうからお話があったまるごと学と外国語学をミックスしております。特に3年生からはそうなっております。だから、英語をやりながらおもてなしの話とかをしていくというか、松島について学んでいく形です。1・2年生は英語を使う時間が全くございませんので、国語と生活科の内容から20時間、「子ども国際観光科」に見合うような内容をこれからカリキュラムをつくって行って、英語もその5時間に入れていきます。「5時間ですか、たったの」というんですけれども、ふだんの授業の中に英語を少しずつ取り込んでいく、Look at meとか、Good jobとか、Sit downとか、国語なんだけれども英語が入る、社会なんだけれども英語が入るという形で、5時間以上の授業を展開していきたいと思っております。幼稚園でもう既にやっていることなので、それをうまく小学校1・2年生でも生かしながら、子どもたちの将来に向けて、地域を見つめる目を育てていきたい、あるいは地域を誇りに思う心を育てていきたいということで、結構たくさんのお褒めの言葉をいただきました。これからが問題なので、お褒めいただくのはいいのですが、これからどうやって動かしていくかということで、先進校の蔵王は英語を特区として既にやっているんですね。それで、講師をお呼びして、研修会をしました。昨日あたり情報が入ったんですが、小学校の校長先生が3人集まって、今後の進め方の在り方を検討し、また5月頃に講師を呼んで、さらに詰めていきたいというような話が私に入ってきました。校長会もどんどん自主的にやっていこうという姿勢が表れていますので、教育委員の皆さんも少し見ていただいて、こちら情報もその都度提供いたしますので、どうぞよろしくお祈りします。これは土井班長と、あとうちのコミュニティ・スクールも大きく関わってきますので、一緒になって行く形になっていきます。

2つ目は、先ほど岸班長さんのほうからお話があった台湾との交流ですね。これは「子ども国際観光科」と偶然タイアップしたような形になったのですが、別々の話だったんですね。台湾の疎開先に宮城県出身の方がいて、いろいろ選定し、松島の小さい学校といたら五小ということになりました。

昨日、KHBの「チャージ！」で実際放映されたのは6時半頃ですけれども、その中で松五小の様子が映っていました。見ていて思ったのは、これは台湾によって松島五小の英語教育がもう牽引、引っ張られていくのではないかなと思ったのです。いいことだと思います。どっちかという台湾のほうは今ぐいぐいやっているところがあるので、松五小も負けずに一生懸命練習して、対応してやっていますので、相乗効果としてやっていきたいと。そして、1か年だけではなくて、この「子ども国際観光科」のように10年スパンでやりませんかと言ったら、県の国際政策課の方がそうしていただくとうれしいと言っておりましたので、徐々に五小イコール台湾の学校となるかもしれません。そういう形に持っていきたいなと思っております。

最後、3つ目は新聞記事を差し上げておきましたけれども、うちの中学校だけではなくて、子どもたちはこの頃部活をするにしても人数が足りないという状況が起きてきております。例えば2市3町でまとまってチームを組んで中体連に参加するというような状況、これは現実的にあります。ソフトボールでは松島中学校もそのようにやっていますが、どうやって練習会場を確保する、どうやったら利府に行くと練習ができるのか、いろんな問題が

起きてきます。誰が連れて行くかとかね。

そういうことで、もう一つの方法としては、スポーツ団体に、やりたい子がいたらそこに任せたらいいのではないかという話も出てきております。その最初のスタートとして、中学校部活の切り離しをスポーツ庁では考えていると。切り離しと言うと誤解を生むのですが、休日は地域で見えてあげて、学校の先生は手を離していくというような状況が出てきそうな感じがこの新聞ではうかがえます。

ただ、中学校においては中体連という冠がありますので、そのところにはスポ少の団体は入れないんですね。そうすると、どっちの大会、スポ少の大会にも出たい、中体連にも出たいという、少し混沌とした時間を今費やしている、時間が流れているというような形で、今日の朝、永沼校長先生と電話でやり取りしたのですが、中体連の会議に行くと必ずこれが出てきて、今後5年以内にもう動かざるを得ないと。本当は中体連にスポーツクラブを入れて試合はできないんだけど、スポーツ庁のほうでは3年以内、あるいは5年以内に入れないと補助金を差し上げませんよというような話も出ている形で、チームを組めない子どもたちを救おうとしているようなところが散見されるような状態になっています。

私たち教育委員会としては、どのような指示が国から来るのか、中体連から来るのか、見守るしかないのですが、とにかくそういう時代になった、少子化の時代になったんだなというような話で、新聞記事を置かせていただきました。

ひしひしとそういう子どもがいない時代になったというのは、高校の再編も今急ピッチで進んでいます。高校に子どもが来ないと。だから、2つある学校を1つにするとかというような動きも出ているということでもあります。

私のほうから3つお話しさせていただいたのですが、今日は教頭会がありますので、先ほど言った大型連休の過ごし方については校長会で言ったので、こういう話とか働き方改革とかについてちょっと今日話題として教頭会で投げかけていきたいなと思っております。

以上です。

〔金津主査〕ありがとうございました。

それでは、教育長からの報告についてご質問等ございますか。

(質疑)

鈴木委員

大変いいご報告、ありがとうございます。

実は、先ほど台湾の活動のことがご紹介ありましたね。あれはスポッ的な活動なのかなと実は思っていました。あれでおしまいかなと。ではなくて、今のお話で、これを先ほどのまるとと学と外国語との活動と、これはこれで大変な活動ですね。文科省から指定を受けたわけだけでも、これは事務局の方も大変ですね。大変ですよ、これは。これとどういうふうに台湾の活動、今シナジー効果とおっしゃられましたね、相乗効果を期待できるといういなというようなお話でしたけれども、まさに私もそう思います。何かモデルがあるとどんどんどんどん進んでいくと思うんですよ。それをつくっていくということ、これは結構大変なことだと思うんです。その窓口の方の思いが勝負するような気がしてならない。

内海教育長

すごいプレッシャーをいただきました。

鈴木委員

いやいや、本当にそうだと思います。形でなくて、熱い思いだと思うんです。これをどんどん持続させることが大事なのかなと思っていました。教育長先生のお話、大変私期待しています。ありがとうございました。よろしく願いいたします。

内海教育長

1つヒントとして、相乗効果という形をお話ししたのですが、実は蔵王の先進校の研修を聞いたときに、蔵王の女性の先生が、松島の紹介をパワーポイントで作っていただいて、五大堂などをこうやって映像に出して紹介したら、まさに「子ども国際観光科」の中身に近くなるというアイデアをいただきました。それを先生方も聞いています。今後例えば五小だったら「どんぐりころころ」でまずお互い手を組みましたので、あと教室の中の様子、給食、運動について知りたいと言ってまして、観光は大体あちらもネットで調べればわかるけれど、プールには驚いているみたいですね。だから、いろんな学校生活の中で触れていくことをお互いにやり取りすると。その蔵王の先生がおっしゃるには、日本人同士で英語の会話をしてもあんまり意味ないですよと言われました。やっぱりコミュニケーション能力を高めるのには外国人、ネイティブの人と話すのが筋ですよと言われたときに、ハッと思いました。そのとおりの思ったので、できるだけ、台湾の子どもたちは英語もしゃべるし、中国語もしゃべるし、それに負けないようにうちの五小の子どもが追いついていければいいし、五小でやったことはどこの世界にも通じるので、二小、一小

もそのような形で、相手がいなくても発信はできるわけなので、発信できてくれば拾ってくれる方がいると思うので、それで広がっていけばなと思っております。何か可能性があるかなと思ひ、昨日次長、班長と五小を見てきました。以上です。

鈴木委員

1つ、大変いいなと思ったのは、学校給食もあるし、公民館もあるので、例えば給食に反映させて1品でもいいから給食に何か入れるでもいいし、文化観光交流館活動にも何か1つあれば広がると思ひます。

内海教育長

いろんなやり方があるけれども、台湾の何か1つ食材を入れるなど。（「そうそう」「メニューですよ」の声あり）メニューに台湾の名物として。あるいは給食センターの所長さんに、台湾のジャージャー麺みたいなものを作ってもらえるような形で、とにかくいろんなアイデアを出した。鈴木委員さんがおっしゃるように1年だと何回かやったら終わり、それでは全然つまらないので。少し長くやっていたら色々出てくると思ひます。

鈴木委員

本物が出てくるでしょう。本物というか。

内海教育長

はい。まず10年はやりたいなど。1つの節目として。10年やれば、鈴木先生がおっしゃるようになにか形が出てくると思ひますので、すぐやめないで。何かやると確かに先生方の負担にはなるのです。わかるのですが、でも得るものも多いような、子どもたちも緊張しながらも一生懸命楽しくやっていたからね。以上です。

安倍委員

私も「子ども国際観光科」がスタートということで、記事を見させていただいたのですが、今まで松島が注目されるということややっぱり日本三景松島とって、観光というような家族で訪れるとか友達と訪れるというような注目のされ方だったと思うのですが、こういう特区が認められたということ、台湾との交流ができたということで、松島だからこその教育というかオリジナリティー、今はまだたき台な部分的なところもあるかもしれないですけども、それが発信されていくことで、子育て世代の注目を浴びるのではないかなというところに期待があったり、冒頭に生徒数、児童数とかというのを聞いたときに、やっぱり減少傾向はいろんな意味で前に教えていただいたりとかして予測はされていたんですけども、それが現実化になってきている中、こういうのが起爆剤というか、その1つになるのかなと思ひて見ていました。

やっぱり長年やっていく中で、五小さんの中身が見てみたいというのは、人数の少ない中でもどんなふうになっているのかなとかということを知ってみたいかなと、松島にとって五小さんはある意味特別なのかなと。地域との絡みが多かったり、五小独特の行事とかもあったりする、台湾の方にも刺激になるだろうし、五小のほうもそれがまた跳ね返ってきて刺激になっていくと思ひるので、五小で起きていることが一小や二小の子どもさんたちにはなかなか伝わっていかないかもしれないですけども、そうやって例えばさっき出た給食であれば「へえ、五小ってこういうことやってるの」という、そういう子どもたちからの五小に対する眼差しだったり、「私たちもやってみたい」とか「関わってみたい」とかという思いも膨れていくのかな、そのようにつながって行って地域全体が、小学校3校がいい形になっていけばと思ひています。以上です。

佐藤委員

私もこの「子ども国際観光科」はすばらしいと思ひていて、私自身はとてもわくわくしているところであります。もちろん大変さはあるのですが、結果として、私いつも自分自身が思っているのは、子どもが成長できた姿を見るととてもうれしくなって、多分関わっている先生方はそういったところを目指してやっていらっしゃるかなと思ひるので、とにかく大変だということと同時に、子どもたちのために何ができるのかということあたりで、目標といいますか、そういうところを持っていただくと、心情的にも違ってくるかなというふうな思ひがしております。

中身的に申しますと、1・2年生が英語5時間というところで、先ほど教育長先生のほうからありましたように、ほかの場面でも英語を入れていくということが非常に私は重要であるというふうに思ひております。といいますのは、十数年前に幼児教育の関係で英語の学者が調査したというのを伺った講義がありまして、その中で、なぜ日本人は英語を6年、その当時は中高で6年、そして大学まで行くと10年近く英語をやっているのに、なぜ話せないんだというところを調査した結果、第1位に出てきた理由としては「恥ずかしい」、2番目に「自信がない」という、そういう心情的なものが出てきたということで、小さい時期からやはり英語、特にスピーキング、話すと

ということになるかと思うのですが、それに触れることで話すことに恥ずかしさや自信がないというところがクリアできていくのかなというふうに思います。そして、松島町については当然外国の方々もいらっしゃる場面が多いと思いますので、道を聞かれたときにパッと話せるとか、「うわ、外国人の方だ」と後ずさりするのではなく、積極的にやはり子どもたちがそういった、ある意味英語ってスキルだと思うんです、一つの道具だと思いますので、コミュニケーション能力を高めるための一つのスキル、道具として身につけることが、いろんな世界を理解することであったり文化を理解することにつながると思います。先ほどの給食もその一つかと思うのですが、台湾にこういうメニューがあるんだよという、その中から「わあ、こういうのを食べてるんだ」とかいう感激があったり、その土地、土地の文化、風土、そういうのを理解することにつながると思います。とてもすばらしいというところを感じているところです。以上です。

内海教育長

ありがとうございます。これから10年間という長いスパンだったのが私は特区を取る理由の一つでもあるので、鈴木先生もおっしゃっていたのですが、1～2年でやめるのであればそれは取る気もなかったのですが、10年間地道にというか着実にいけば何とかかなりそうな気がしますので、ぜひ教育委員さんも応援していただいて、その都度これはホームページとかに出ていきますし、少し話はずれるけれども、ホームページも最初は先生方は負担のようなことを言っていたんです。けれども、ああやって学校が評価され、子どもの輝く顔が見られ、そうすると先生方もやっぱり晴子先生がおっしゃるように変化が見れるのはうれしいですね。

佐藤委員

そうですね。できないことができるようになるのがうれしいですね。

内海教育長

だから、学校によってはいろんな角度から捉え方があるのですが、とりあえずまんべんなく情報を流してくださいというお話はしておりますので、学校の様子とかを見ていただければ。大体すごい学校だと1日300件くらい軽くいきますので。あと、県外の二小のOBの人も楽しんで見ていたと言っていました。それは手紙とかが来ていますので、そういう方々にも見させてあげたいし、あと最近ほっこりしたのは、二小の避難訓練、6年生が幼稚園の子と手をつないで逃げていくという姿、本当に津波が来たらほっこりなんてできないですが、かわいいなあと思いつつ見させていただきました。手前みそになってしまうのですが、そういうふうに頑張りますので、よろしく願います。以上です。

5. 協議事項

(1) 令和4年5月定例会について

〔金津主査〕続きまして、5番、協議事項に移ります。

(1) 令和4年5月定例会について、日程案として5月27日金曜日、午前9時から、こちら301会議室で予定しております。この日程でよろしいでしょうか。（「はい」の声あり）

ありがとうございます。

6. その他

(1) 学校経営方針に関する意見交換会について

〔金津主査〕続きまして、6番、その他に移ります。

(1) 学校経営方針に関する意見交換会について、5月27日金曜日、教育委員会5月定例会後、午前10時30分から、隣の大会議室で予定しております。よろしく願います。

なお、本日皆様のお席に配付しております教育計画書をご持参いただきまして、意見交換会を実施しますので、よろしく願います。

〔内海教育長〕少し補足させていただきますけれども、今日は教頭会があるという話をしましたけれども、今日はもみの木ハウスを見学しながら教頭会を行うということで、どういう活動をしているのか、教頭先生にももみの木ハウスを見ていただくことと、それから5月27日の学校運営説明会ということで、非常にコンパクトにした各学校の教育方針をお示ししますので、ぜひたくさんご意見をいただいて、それがコミュニティ・スクールの指針にもなりますので、どうぞよろしく願います。以上です。

〔金津主査〕最後に、全体としましてご質問等ございますか。

7. 閉会 午前10時34分

〔金津主査〕それでは、以上をもちまして松島町教育委員会令和4年4月定例会を閉会いたします。

閉会の挨拶を鈴木教育長職務代理者よりお願いいたします。

〔鈴木教育長職務代理者〕今日は新年度第1回目の定例会、大変ご苦勞さまでございました。

小学校、幼稚園、中学校も新年度がスタートして、教育長のお話だとみんな順調に学校に出てきていると。

そして、明日からは連休に入りますね。いろいろ事故等々も各ニュースであるのですが、万全を尽くして、ここからは出さないというような体制でひとつよろしくお願いしたいなというふうに思います。

それから、今日の教育長のお話、大変松島に何か本当に新たなものを教育関係で定着させていくということは極めて私重要だなと。延長線上ではなくて、やっぱりこれからの松島というものを子どもたちに定着、つくっていくということが、こういう仕掛けが絶対必要だと思います。延長線なんです、昔からあるのは。やっぱりそこはみんなでベクトルを合わせて、協力してつくっていきましょう。どうもありがとうございます。よろしくお願いいたします。

〔金津主査〕以上となります。ありがとうございました。

この会議録の作成者は、次のとおりである。

教育課学校教育班 主査 金津 晶子

上記会議録が正確であることを認め、ここに署名する。

令和4年5月27日

委 員

委 員